

ジャパン、トリップ、2006 (Japan Trip 2006)

澤 功 (澤の屋旅館主人) ※この記事は日観連機関誌の2006年8・9月合併号に掲載されました。

私が朝起きて食堂に行くと、もう三～四名の生徒さんがテーブルに座っています。

私が「グッドモーニング」と言うと「おはようございます」という日本語が返ってきます。

フロントで「サンキューベリマッチ」と私が言うと「どういたしまして」とまた日本語です。

なんとも珍妙な会話になってしまいますが、これはアメリカから来た先生一名、男生徒六名、女生徒二名の高校生のグループの人達との会話です。そこで引率のクリスマスグジャー先生にいろいろなことを質問してみました。

「学校はどこにあるのですか」

「インディアナポリスで、高校の名前はローレンス・セントラル・ハイスクールです。ここは世界三大カーレースの一つ“インディ五〇〇マイル”で有名なところですよ。でも田舎です。」

「先生は学校で何を教えているのですか」

「私は福岡に二年間住んでいたことがあります。アメリカの歴史を教えてください、日本語も教えてください。私どものところはアメリカでワシントン、オレゴン、カルフォルニア、ハワイについて五番目に日本語がさかんなところですよ。」

「なぜ日本に来たのですか」

「昨年、宇都宮の高校と私どもの高校が姉妹提携しました。そして昨年三月に宇都宮から十名の生徒さんが来て、三週間ホームステイをして行きました。そして私たちが今年呼ばれたのです。生徒たちは、日本はヨーロッパの国と文化、歴史が違っていることと、日本の人の考え方も自分達と違っているのではないかと、その辺に興味を持っているようです。」

「情報は何処で、プランは誰がたてましたか」

「私はガイドブックのロンリープラネットをバイブルにしています。それとインターネットで調べました。プランは生徒と一緒に何回も話し合っただけで作りました。」

「澤の屋をどうして選んだのですか」

「インターネットの“グループ”でジャパン旅館と検索するといっぱいできました。そこで家族とオカメインコのレオンの写真を見つけたので、Eメールで早速予約しました。」

「費用はどれくらいですか」

「一、九八五ドルです。そのうち約一、〇〇〇ドルが航空運賃です。JRのジャパンレールパス七日間二八、三〇〇円と、宿泊料は一泊素泊り約五、〇〇〇円、それに旅行保険料などです。」

「交通費については、どうしましたか」

「成田から東京までは京成電鉄のリミテッドエクスプレス一、〇〇〇円で来ました。東京都内は一日乗車券が

高いので、その都度買いました。地方では七日間のジャパンレールパスをフルに使います。」

「東京ではどこに行きましたか」

「初日は、朝早くアメリカを出発して、旅館に午後七時頃着きました。二日目は原宿に行って若者の町を歩き、夜は上野の回轉ズシで夕食をとりました。三日目はアメ横と秋葉原それに合羽橋に行き、夜は澤の屋の近くの田吾作で焼鳥を食べました。生徒たちは、自分の国では外出する時に車で出かけることしか知りませんから、東京で地下鉄や電車で移動することがとても楽しかったようです。昼食では、うどんとラーメンが安くておいしかったと言っています。」

「これからの日程はどうなっていますか」

「これから河口湖で二泊、京都で四泊します。京都ではレールパスを使って奈良、姫路、広島に行きます。特に広島では私も生徒も戦争を知らない世代ですから、戦争の悲惨さと平和の大切さを学びたいと思っています。それから宇都宮に行って、そこで十日間ホームステイをして、それからアメリカに帰国します。」

「これは修学旅行なのですか」

「アメリカには日本のような修学旅行はありません。私どもは今回の旅を“JAPAN Trip 2006”と呼んでいます。」

これがアメリカの教育旅行の一つの形なのかなと思いました。

それにしても、先生が流暢な日本語で答えてくださるので、私はとても楽な会話でした。

せん。